

# 第117期 中間報告書

(2023.4.1 ⇒ 2023.9.30)

## Contents

- P1 トップメッセージ・財務ハイライト
- P3 営業概況
- P4 連結財務諸表
- P5 会社概要・株式状況





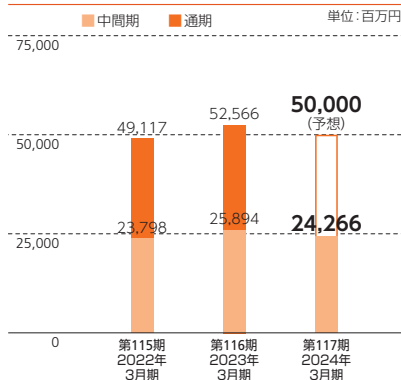
## 第11次経営計画「NIPPON KINZOKU 2030」で掲げたビジョン、『人と地球にやさしい新たな価値を共創する「Multi & Hybrid Material」企業』の実現を目指します。

新事業アイテムを中心とした高収益差別化製品の拡大を推進し、高収益体質への転換に取り組むとともに、再生可能エネルギーの活用や、環境に貢献する技術・特性を有する当社独自の「エコ・プロダクツ製品」の販売増など、持続可能な社会の実現にも貢献します。

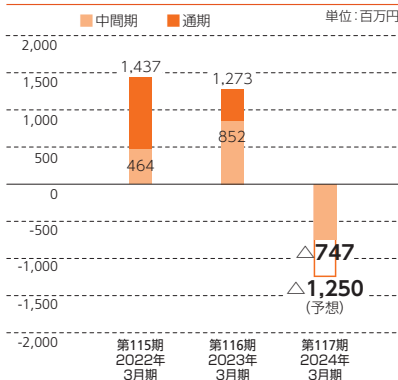
取締役社長 下川 康志

### ◆ 財務ハイライト（連結）

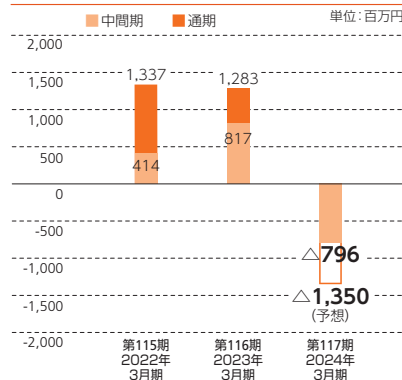
#### 売上高



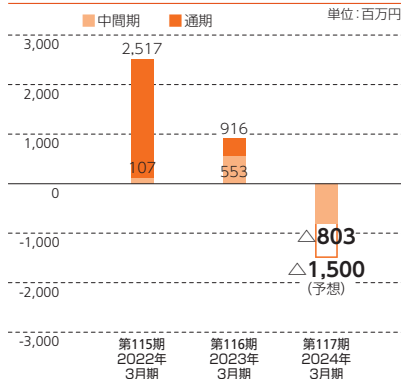
#### 営業利益又は損失 (△)



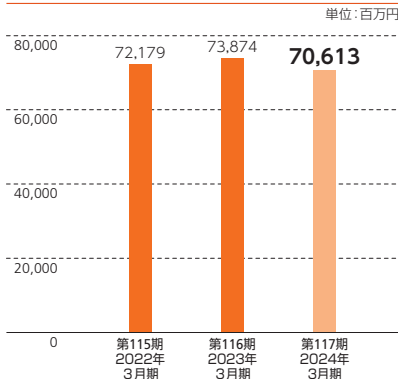
#### 経常利益又は損失 (△)



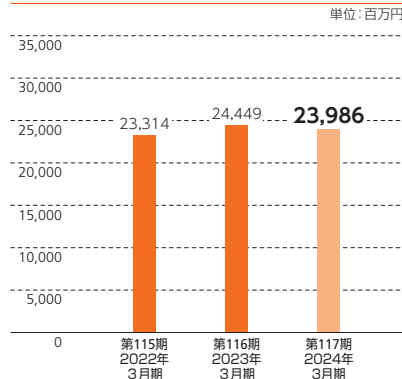
#### 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は損失(△)



#### 総資産



#### 純資産



※ 予想数値は2023年10月31日に開示いたしました業績予想の数値となります。

## ⇒ 当中間期の経営成績と業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当中間期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和され、緩やかな回復基調が継続するものの、各国がインフレ抑制のための金融引き締め政策を継続し、中国ではインフラ投資の低迷や個人消費の回復が伸び悩むなど、一部の国・地域では景気回復が遅れている状況となっております。また、ウクライナ情勢の長期化を背景とした原材料、エネルギー、副資材、物流などの価格高騰の継続もあり、経済の先行きに対する不透明感が増す状況が続いております。

ステンレス業界におきましては、当社グループ製品の主要取引先である自動車関連産業での半導体を含む部品供給不足の解消により需要が回復すると見込んでおりましたが、国内におけるサプライチェーン間での在庫調整が長引き、また、海外ではEV化への対応が遅れた日本車の販売不振や中国市場の低迷などの影響により需要の回復が大幅に遅れており、厳しい事業環境が継続しています。

このような状況のもと、当社グループは、販売費及び一般管理費を含む事業コストの削減、生産効率の向上や品質改善、原材料価格動向の販売価格への適時反映など全社的な収益改善活動を推進してまいりましたが、需要低迷により大幅に減少した生産・販売数量の影響を受け非常に厳しい状況下にあります。

この結果、当中間期の売上高は前年同期比16億2千7百万円(6.3%)減収の242億6千6百万円となりました。損益面につきましては、営業損益は7億4千7百万円の損失(前年同期は8億5千2百万円の利益)、経常損益は7億9千6百万円の損失(前年同期は8億1千7百万円の利益)、親会社株主に帰属する中間純損益は8億3百万円の損失(前年同期は5億5千3百万円の利益)となりました。

## ⇒ 配当について

中間配当につきましては、2023年10月31日に開示いたしました配当予想のとおり、中間配当は見送りとし、期末配当につきましても、誠に遺憾ながら無配の予想とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、一刻も早く業績を回復し、配当を再開させるべく、グループ一丸となって改善に取り組んでまいりますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## ⇒ 通期の見通し

通期の見通しにつきましては、当社グループ製品の主要取引先である自動車関連産業において、国内ではサプライチェーン間での各種部品の在庫調整が予想以上に長引いており、また海外では特に中国においてEV化による当社グループ製品を装備した欧米車・日本車の販売不振、現地材料メーカーへの切替えが予想以上に早く進んでいること等から、需要の急な回復は見込めない状況です。そのほか、エネルギー、原材料、副資材の値上がり等による原価率の上昇に対し販売価格の是正を進めているものの、その改定幅や実施時期の交渉が難航しており、また売上高減少に伴う各工場の稼働率低下に対しては、生産シフトの調整や事業コストの削減を鋭意進めておりますが、業績の大幅な悪化が避けられない見通しです。

このような状況から、通期連結業績予想数値につきましては、2023年10月31日に開示いたしましたとおり、売上高500億円、営業損益12億5千万円の損失、経常損益13億5千万円の損失、親会社株主に帰属する当期純損益15億円の損失と予想しております。

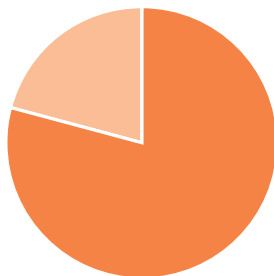
当社グループといたしましては、第11次経営計画「NIPPON KINZOKU 2030」を推進し、新たなニーズに対応する新技術・新製品を主力とする事業構造へのシフトを進めることで、業績の早期回復に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※「配当について」及び「通期の見通し」の内容は、2023年10月31日に開示いたしました配当予想及び業績予想における内容となります。

## セグメント別概況

### ◆ みがき帯鋼事業

売上高比率  
**79.3** %



冷間圧延ステンレス鋼帯につきましては、メタリック感を活かした黒加飾ステンレス鋼（ファインブラック）は、国内大手自動車メーカーの高級車種の外装モール用材へ採用が拡大し増加しました。しかし、主力である自動車関連は、国内では自動車生産が回復傾向にあるものの、サプライチェーン全体の在庫が依然調整局面から脱することができず、また、当社の主力輸出先である中国では、当社外装モール材のシェアが高い欧米車や日本車は中国製などのEVへの切り替えで、販売が低迷したことに加え、現地ステンレスメーカーが低コストを武器にシェアを拡大したこともあり、販売数量が回復しませんでした。新型コロナウイルス感

染拡大に伴う需要が一巡した電子部品関連の受注も回復が見通せない状況です。

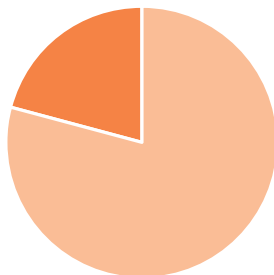
みがき特殊帯鋼につきましても、自動車関連の回復の遅れで販売数量は伸びを欠く結果となりました。また、刃物用途は北米市場の金利上昇を受けた住宅販売件数の減少に伴い、主に内装で使用する刃物の販売数量が減少しました。

原材料、エネルギー、副資材、物流などの諸コストの上昇に対しては、全ての変動要因に対し、販売価格へ反映させる指標を策定し、継続的に販売価格の是正を進めています。更に低収益品の販売価格の是正や高品質差別化製品のエキストラ改定など、付加価値に見合った適正な価格への是正も継続的に進め、収益性の維持に努めました。販売数量の大幅な減少による業績の悪化を避けることはできませんでした。

以上の結果、みがき帯鋼事業の売上高は、前年同期比13億8千9百万円（6.7%）減収の192億3千8百万円、営業損益は3億7千7百万円の損失（前年同期は8億5千1百万円の利益）となりました。

### ◆ 加工品事業

売上高比率  
**20.7** %



福島工場取扱製品につきましては、主力の自動車駆動部品用高精度異形鋼製品は、自動車のEV化の流れを受けて全体の需要は減少しておりますが、当社のQCD（品質・コスト・納期）が高く評価された結果、客先内でのシェアアップにつながり回復しました。水処理施設向けに独自に開発し量産を開始した軽量・高強度のフォーミング製品は、提案力やコストダウンが評価され、その他の部材へ拡大が進んでいます。一方で、建築関連製品は市場が低迷したまま、依然として厳しい状況が継続しています。

岐阜工場取扱製品につきましては、文具向けで需要低迷による在庫調整の影響で販売減となった一方で、

国内外の医療機器、計測機器、分析機器や半導体製造装置向けで、従来の加工技術を更に細径まで深化させ開発した内面高精度管が販売増となりました。自動車関連用途では、内燃機関（ICE）を有する自動車の減産がありました。環境対応装置向けやアフターパーツ市場向けで堅調に推移しました。

以上の結果、加工品事業の売上高は、前年同期比2億3千7百万円（4.5%）減収の50億2千7百万円、営業利益は前年同期比2億7千9百万円（49.2%）減益の2億8千8百万円となりました。

# 連結財務諸表

## ➤ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 2023年9月30日	前期 2023年3月31日
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	35,157	38,297
固定資産	35,455	35,576
有形固定資産	31,678	32,053
無形固定資産	145	133
投資その他の資産	3,631	3,389
資産合計	70,613	73,874
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	30,885	31,339
固定負債	15,741	18,085
負債合計	46,626	49,424
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	16,360	17,197
資本金	6,857	6,857
資本剰余金	986	986
利益剰余金	8,527	9,364
自己株式	△ 10	△ 10
その他の包括利益累計額	7,625	7,251
その他有価証券評価差額金	1,158	983
土地再評価差額金	6,077	6,077
為替換算調整勘定	591	408
退職給付に係る調整累計額	△ 201	△ 217
純資産合計	23,986	24,449
負債・純資産合計	70,613	73,874

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ➤ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	前中間期 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日
売上高	24,266	25,894
売上原価	22,361	22,486
売上総利益	1,904	3,407
販売費及び一般管理費	2,652	2,555
営業利益又は損失 (△)	△ 747	852
営業外収益	103	106
営業外費用	152	141
経常利益又は損失 (△)	△ 796	817
特別利益	104	3
特別損失	17	32
税金等調整前中間純利益又は損失 (△)	△ 710	789
法人税、住民税及び事業税	133	199
法人税等調整額	△ 39	35
親会社株主に帰属する中間純利益又は損失 (△)	△ 803	553

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ➤ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	前中間期 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,343	△ 633
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,966	△ 3,635
財務活動によるキャッシュ・フロー	704	706
現金及び現金同等物に係る換算差額	104	209
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,500	△ 3,353
現金及び現金同等物の期首残高	8,035	10,065
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,535	6,712

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ➤ 会社概要 (2023年9月30日現在)

創業	1930年11月10日
設立	1939年12月2日
本店所在地	東京都板橋区舟渡四丁目10番1号
本社事務所	東京都港区芝五丁目30番7号 電話 (03) 5765-8111 (大代表)
資本金	68億5千7百万円
連結従業員数	876名
当社従業員数	599名

## ➤ 役員 (2023年9月30日現在)

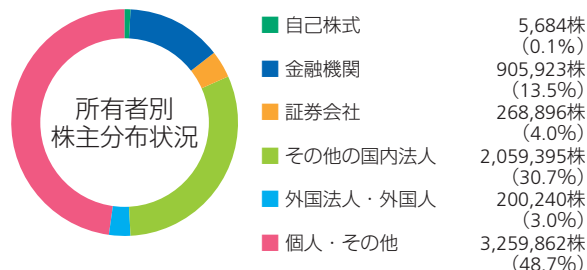
取締役社長 (代表取締役)	下川康志	社外取締役 (独立役員)	小川和洋
専務取締役	原田喜弘	社外取締役 (独立役員)	永塚良知
専務取締役	山下匡史	社外取締役 (独立役員)	假屋ゆう子
常務取締役	長谷川伸一	常勤監査役	進藤紀充
常務取締役	山崎 修	社外監査役 (独立役員)	砂山晃一
		社外監査役	浦上純一郎

## ➤ 株式の状況 (2023年9月30日現在)

- ① 発行可能株式総数 24,000,000株
- ② 発行済株式総数 6,694,316株  
(自己株式5,684株を除く)
- ③ 株主数 5,667名  
(うち、単元株主数 5,077名)
- ④ 大株主

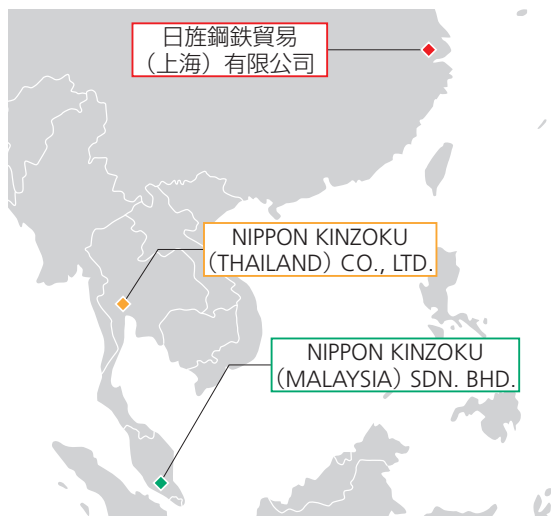
株主名	持株数	持株比率
	百株	%
日鉄ステンレス株式会社	8,725	13.0
日本金属取引先持株会	6,023	9.0
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	3,787	5.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,849	4.3
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	1,627	2.4
上田八木短資株式会社	1,207	1.8
株式会社アドバネクス	1,025	1.5
鶴岡通敏	1,010	1.5
A S A D A 株式会社	1,000	1.5
株式会社みずほ銀行	1,000	1.5

(注) 持株比率は自己株式(5,684株)を控除して計算しております。



## ➤ 事業所 (2023年9月30日現在)

- ◆ **本社事務所**  
東京都港区芝五丁目30番7号  
〒108-0014 電話 (03) 5765-8111 (大代表)
- ◆ **大阪支店**  
大阪府大阪市中央区淡路町三丁目6番3号 御堂筋MTRビル  
〒541-0047 電話 (06) 7711-6133 (代表)
- ◆ **名古屋支店**  
愛知県名古屋市中区新栄町一丁目1番地 明治安田生命ビル  
〒460-0004 電話 (052) 962-6671 (代表)
- ◆ **板橋工場**  
東京都板橋区舟渡四丁目10番1号  
〒174-8560 電話 (03) 3968-6300 (代表)
- ◆ **岐阜工場**  
岐阜県可児市姫ヶ丘二丁目24番地  
〒509-0249 電話 (0574) 63-1071 (代表)
- ◆ **福島工場**  
福島県白河市東釜子字鹿島1番地  
〒961-0303 電話 (0248) 34-2961 (代表)



## グループ会社

(日本)

- ◆ 日金スチール株式会社
- ◆ 日金精整テクニクス株式会社
- ◆ 日金電磁工業株式会社
- ◆ 株式会社セフ

(海外)

- ◆ 日旌鋼鉄貿易 (上海) 有限公司
- ◆ NIPPON KINZOKU (THAILAND) CO., LTD.
- ◆ NIPPON KINZOKU (MALAYSIA) SDN. BHD.

## ➔ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
 定時株主総会 毎年6月  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	当社の特別口座の口座管理機関みずほ信託銀行へお問い合わせをお願いします。  〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部  フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
未払配当金のお支払	右記みずほ信託銀行までお問い合わせをお願いします。	ホームページ <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html">https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html</a>
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	お取引の証券会社又は右記みずほ信託銀行までお問い合わせをお願いします。	電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

単元株式数 100株

公告方法 当社のホームページ (<https://www.nipponkinzoku.co.jp>) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場取引所 東京証券取引所スタンダード市場



# 日本金属株式会社

本社事務所 〒108-0014 東京都港区芝五丁目30番7号  
 TEL. (03) 5765-8111 (大代表) FAX. (03) 5765-8116

<https://www.nipponkinzoku.co.jp>

## ➔ ホームページのご案内



<https://www.nipponkinzoku.co.jp>

### 「株主便り」公開のお知らせ

9月29日に当社ウェブサイト内の「株主通信・株主便り」のページに「株主便り」を掲載しました。「株主便り」は株主・投資家の皆様とのコミュニケーション強化の一環として、毎年3月・9月にウェブサイト内で公開する冊子です。是非ご覧ください。  
<https://www.nipponkinzoku.co.jp/investor-relations/note>



日本金属公式YouTubeチャンネル

会社・各工場紹介動画をご覧いただけます。

## ➔ 主要製品

事業	主要製品
みがき帯鋼	冷間圧延ステンレス鋼帯、みがき特殊帯鋼、マグネシウム合金帯
加工品	型鋼・精密異形鋼等ロール成形品、ステンレス精密細管、電磁製品